

ズーラシアにおけるホッキョクグマ繁殖への試み と偽妊娠事例

(公財) 横浜市緑の協会 よこはま動物園
伊藤 咲良

2011年に発足した(公社)日本動物園水族館協会・ホッキョクグマ繁殖プロジェクトでは情報共有と技術向上を目指し、個体の施設間移動を伴う繁殖計画の立案を進めている。また、世界でも妊娠判定ができない本種において、岐阜大学により、国内飼育個体の糞尿で生殖ホルモン測定を行い、妊娠判定に向けた研究も行っている。そのような状況の中、よこはま動物園では2011年11月に出産歴のあるメス(バリーバ)を迎えることになった。それに伴い、既存の産室を改修し、オス(ジャンプイ)とペアを組み、繁殖に向けた管理を行ってきた。2013年の出産期にはメスが自ら産箱内に入る様子がみられたが、結果的には偽妊娠であった。これまで国内では偽妊娠時についての記録がなく、今後の本種における繁殖計画に役立てるため、当園の飼育繁殖管理とホッキョクグマの偽妊娠の詳細について報告する。

妊娠したホッキョクグマのメスは、雪の吹き溜まりに穴を掘って巣をつくり、その中で出産子育てを行い絶食で過ごす。飼育下では、同様の産箱を用意し、静寂な環境を整えることが重要とされているので、産室改修の大きな目的は防音効果を増すことであった。

当園ではメスの出産期に向けて、出産育児事例のある男鹿水族館(秋田県)からの報告(2013)によりメスの体重300kgを目標とした給餌を行い、絶食期へ向けての体づくりを行った。ペアは、通常、相互が見えるように分離飼育されていたが、発情行動が確認された時点で同居飼育を開始した。2012年には2月14日、2013年には3月7日の各1日に交尾が確認された。2014年は3月2~9日の連日、早朝に交尾が確認された。

メスは10月中旬より非公開エリアで過ごし、産室でのメスの行動は監視カメラの録画映像により観察した。ペアリングの1年目(2012年)には目立った変化が認められず、産室利用には至らなかった。2年目は11月上旬から夜間産箱内で寝ることがみられ、11月14日に産室へ閉じ込めて絶食させ、担当者の産室付近への入室も禁止した。産室では落ち着いて寝ていることが多く、11月27日~12月12日は産箱内の滞在時間が長くなったが、その後産室内をうろろ歩きまわることが多くなっていった。メスの糞中黄体ホルモン値は行動変化と同様に、10月中旬より上昇がみられた。しかし、出産は認められず偽妊娠であったと判定した。

本報告で観察された偽妊娠時にも妊娠時と同様の行動変化のあることが明らかとなった。しかし、男鹿水族館での出産事例と比較して1日の産箱滞在時間は短かった。その違いが偽妊娠の影響か個体差なのかは、今回の例だけでは特定できない。偽妊娠もしくは妊娠判定のために、今後も行動観察データのみならず尿や血液などを用いた数多くの生理学的データをより多くの個体で蓄積していくことが必要であると考えられる。